

令和3年度 第1回

交野市環境審議会 会議録

環境部 環境総務課

- 1 開会 令和3年9月29日(水)午後3時
- 2 閉会 令和3年9月29日(水)午後4時53分
- 3 会場 交野市役所 別館3階 中会議室
- 4 出席委員 青笹 治、植松 千代美、安藤 馨、葛城 真美子、畑 和美、田中 茂年、西川登志雄、波戸 良光、和田 卓也、奥田 中、代永 京、玉井 八恵子
- 5 事務局 環境部
審議会に係る事項：環境総務課
案件に係る事項：環境衛生課
- 6 案 件
 - (1) 諮問 第二次交野市環境基本計画
 - (2) 諮問案件 第二次交野市環境基本計画について(諮問)
 - (3) その他
- 7 傍聴者 無し

事務局　それでは、定刻になりましたので、令和 3 年度、第 1 回交野市環境審議会を開催いたします。
開催に先立ちまして、交野市長の黒田よりご挨拶申し上げます。

市長　皆さんこんにちは、交野市長の黒田でございます。

本日の審議会にお忙しい中、各分野でご活躍いただいております皆様にご参加いただきまして心から感謝申し上げます。また、本市の新型コロナウイルス感染症感染対策にご理解、ご協力をいただいておりますこと、この場をお借りしまして厚く御礼申し上げます。

本市における感染状況でございますが、昨年からは今年の 8 月が最高で 350 人前後の方が感染されましたが、おかげさまで、大阪府下と同様に着実に減ってまいりました。またワクチンの接種につきましても交野市医師会のみなさんと連携、協力のもと第 1 回目の接種完了者が 7 割を超えました。2 回目の接種についても来月の半ばぐらいには 7 割半ばの方々に、接種済みになるという状況でございます。引き続き、感染症対策に取り組んでまいりたいと思います。

さて、現在の交野市環境基本計画は、10 年前に策定をされ、市民協働で交野市の環境保全を掲げ、二酸化炭素の排出削減対策について多くの市民の方々にご協力いただいております。近々の動向として国では、2020 年 10 月に 2050 年までに、温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする、すなわち 2050 年カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現を目指すことが宣言されました。これは国だけでなく地方自治体においても、しっかりと取り組んでいかなければならない。そしてこれは日本だけじゃなくて、全世界にとって大切な大きなテーマになっております。そうした背景の中、これからの次期計画について、皆様方のお知恵をいただきながら実効性があり、評価検証ができる計画が必要となります。また、素案の策定プロセスでは新たに中学生を対象としたジュニア委員会というのも立ち上げまして、中学生の方々にも、今の環境問題についてどう思うのかということをお聞きする場を作ってまいりました。2050 年のカーボンニュートラルは、2050 年 30 年後の主人公は誰か、今、13 歳から 15 歳の中学生が 40 歳代になったときに、どういう社会、どういう国、どういう地域であるべきか、そうしたことも我々がしっかりと思いながら、策定に臨んでまいりたいと思っております。

皆様方には、忌憚のないご意見もお聞かせいただきながら、国際的な地球環境規模での環境問題と合わせて、交野のこの里山、美しい山川を保全し、多様性を担保しながらこれからの次世代に引き継いでいくための、環境計画・行動計画について、皆様方のご協力を心からお願い申し上げます、私からの審議会開催にあたりまして、お願いと挨拶とさせていただきます。

事務局　ありがとうございました。

続きまして、交野市環境審議会委員の皆様のご紹介に移らせていただきます。恐れ入りますが、青笹会長より時計まわりで自己紹介をお願いいたします。

委員 摂南大学の青笹でございます。
理工学部生命化学科に所属しております。環境分析等を専門としておりまして、現在の研究テーマとしては「化学物質の生態影響」について取り組んでおります。どうぞよろしくお願いいたします。

委員 皆さんこんにちは。安藤と申します。大阪府中部農と緑の総合事務所みどり環境課というところで2年目になります。専門は、森林、林業、森づくりなどでほしだ園地の管理も担当しております。どうぞよろしくお願いいたします。

委員 皆さん初めまして。
大阪府四條畷保健所衛生課の葛城と申しますよろしくお願いいたします。
四條畷保健所衛生課は、食品衛生環境衛生担当しておりまして、食品監視員として食品衛生を担当しております。どうぞよろしくお願いいたします。

委員 皆さんこんにちは。
北大阪商工会議所交野支所の畑と申します。よろしくお願いいたします。
北大阪商工会議所では枚方市、寝屋川市、交野市の3市を管轄する商工会議所で中小地元事業者の方の経営のご相談の対応など行っております。
また、事業者の方を対象として、毎年6月の環境月間の時には環境表彰といった、事業者さんの環境改善に対する取組を表彰させていただくということもやっております。今後ともよろしくお願いいたします。

委員 こんにちは、交野市商業連合会の西川と申します。
色々な環境問題がありますが一つでも勉強して我々の会員にも少しでも多くを伝えられるように努力します。よろしくお願いいたします。

委員 交野市医師会の波戸でございます。
医師会ではこの2年間本当にコロナに追われましてみんな疲弊していますけれども、もう一歩がんばりたいと思っております。
よろしくお願いいたします。

委員 こんにちは和田です。交野市PTA協議会の代表として参画しております。
現在は一中ブロックのブロック長と、交野一中のPTAの会長をつとめさせていただいております。子ども目線であるところ、先ほど市長が仰られたように、何十年後に、子供たちが大人になった時に、この時の基本計画が重要な役割を果たすというところですね、10年後20年後の交野の町の環境が汚染されていないような壊れていない町にしたいというところで意見を述べたいと思っております。
私の本業は専門が、地質とか、地下水とそういうものでございまして、全国の廃棄物にかかわる不法投棄関係など、環境保全の対策やっております。また、

ここの第二京阪国道の先にある道路の大深度地下のプロジェクト等にも携わりました。そういう関係で特に交野の地下水に関して守っていく必要があるという観点が大切であると考えておりました、私の技術的な提言なんかもさせていただきたいと考えておりますのでよろしくお願い致します。

委員 みなさんこんにちは、交野里山ゆうゆうかい会の奥田中（あたる）と申します。おかげさまで、2001年に会を発足いたしまして今年は丸20年、何とか会員も100名ぐらいになりますが、私も去年、後期高齢者になりましたが、年々高齢化が進んでおりました、我々が活動する交野山森林公園は、斜面が急で、作業が大分きつくなってきています。特にここ10年ぐらい前からご存じのとおり突然の雨が多かったりしますが、非常に山も荒れてきておりました、高齢者ばかりではなかなか十分な活動が伴わないといったところで頭をいためております。例年、里山の保全を推進するための養成講座を、広報かたの10月号に掲載しております。ぜひ講座を受けていただいて、参加した方が一人でも多く会員になっていただいて、若干なりとも若返りあるいは足腰の強くなるような体制づくりにもっていかねばと思っています。ひとつよろしくお願い致します。

もう1点お伝えさせていただきますが、この10月には国土緑化推進機構の理事長賞を受賞する全国14団体のうちのひとつに選ばれました。これも日ごろから倉治区をはじめ、地域の方々や交野市の環境衛生課さん等々ご支援いただきながら、我々の活動を進めてきた結果だと思って、今後も私どもの諸先輩にも大いに感謝しながら今後の活動も続けていきたいと思っております。

後ほどまた今まで環境的な課題がありましたら発言はさせていただきます。よろしくお願い致します。

委員 こんにちは。交野市消費生活問題研究会の代永と申します。私共の会は今年50年目を迎えます、地域に根ざした活動を中心に年に1回は生活展と題しまして青年の家で活動報告をしております。これからも地域に根ざした活動をしたいと思っています。ぜひ今後ともよろしくお願い致します。

委員 こんにちは。交野市環境基本計画推進会議、代表をしております、玉井と申します。

団体の愛称は「交野みどりネット」と言っております。

第一次の環境基本計画を作る時の環境を考える委員会から関わって、12年になります。10年間の環境基本計画を推進している立場でいろいろ活動してきました。

まとめや評価の洗い出しをしていただいておりますので、さらに次の第二次計画を考えてみたいなと思っています。どうぞよろしくお願い致します。

委員 みなさんこんにちは。交野市私市にあります大阪市立大学植物園に勤務しております植松と申します。交野市さんとは本当に深いご縁になりました。

2006年ごろから交野の環境講座や環境フェスタなどで一緒にさせていただいております。

コロナ禍で植物園が一時閉鎖、休園になり交野市さんと一緒にさせていただいた環境講座を含めあらゆる事業がストップしてしまいましたが、先日その中で交野市の小中学校の先生方の研修を今回この夏にオンラインという形で開催することができました。小中学校の先生方を通じて地域の子供達に植物園のような自然、多様性の効果について伝えていってもらえたらなと思っています。ちなみに交野市の面積の1パーセントもの緑地を植物園が占めているのがちょっと誇りです。今回の審議会から、いくらかでも芽を生み出せたらと思います。よろしくをお願いします。

委員 交野市工業会から出させていただいております。有限会社田中企画の田中と申します。交野の星田北で産業廃棄物の中間処理場を営んでおります。今現在、交野市工業会では、定例の理事会についても、リモート会議での対応を薦めておりますので、今回も失礼ながら、リモートで参加させていただいております。急遽、仕事の都合で外出先からの参加となり、申し訳ありませんが、皆さんどうぞよろしくをお願いします。

事務局 ありがとうございました。

それでは、案件審議の前に、会議の公開の有無について諮っていただきたいと存じます。お手元の資料「会議の公開に関する指針」をご覧ください。1に公開の目的、2に公開対象とする会議、3に会議公開の基準がその他、8の公表までが規定されております。3の会議の公開基準では、審議会等の会議は、原則として公開するものとする。と規定されております。恐れ入りますが、指針の4に基づき青笹会長より、諮っていただきたいと存じます。よろしく願いいたします。

委員長 はい、それでは只今事務局から会議の公開について説明がありましたが、本審議会を交野市の指針に基づき公開とさせていただいたよろしいでしょうか。

委員 異議なし。

委員長 それでは本審議会を公開することとさせていただきます。よろしく申し上げます。

事務局 続いて傍聴希望について報告させていただきます。今回の傍聴希望者はございませんでした。引き続きよろしくお願いいたします。

委員長 それでは、次に委員の出席状況について事務局から報告をお願いいたします。

事務局 本日の審議会の委員の出席状況につきましてご報告いたします。

本日の出席委員は 12 名中、対面で 11 名、リモートで 1 名の計 12 名の出席いただいております。審議会設置条例第 6 条第 2 項の規定を満たしており、本会議が成立していることをご報告いたします。

委員長 はい。それでは次に会議を進めさせていただきます。よろしくお願いいたします。

事務局 それでは黒田市長より交野市環境審議会、青笹会長への諮問に移らせていただきます。

市長 交野市環境審議会会長、青笹治様。 交野市長、黒田実。
第二次交野市環境基本計画の策定について諮問。

標記の件につきまして、交野市環境審議会設置条例の第 2 条に基づき意見を求めます。1. 諮問事項、第二次交野市環境基本計画について、2. 諮問理由
交野市環境基本計画は 2012 年（平成 24 年）3 月に 2021 年度、（令和 3 年度）までの 10 年間を対象として地域の良好な環境を保持し持続可能な社会を作ることを中心に作成しました。

今回、計画の最終年を迎えることに加え、国内外では 2050 年までに温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする、すなわち 2050 年カーボンニュートラル脱炭素社会の実現を目指すことが求められるなど環境行政は大きな転換期を迎えています。

こうした、課題への対応と本市の良好な環境を保持するため第二次交野市環境基本計画を策定することからその内容について審議をお願いします。よろしくお願いいたします。

事務局 青笹会長、黒田市長ありがとうございました。ここで黒田市長は公務の為、退席されます。それでは青笹会長よろしくお願いいたします。

委員長 それでは審議会を進めさせていただきます。
本審議会の諮問案件は第二次交野市環境基本計画についてということで、本日の諮問案件となっております。
それでは環境基本計画について説明をしていただきたいと思います。

事務局 はい。失礼いたします。
それでは諮問案件、交野市環境基本計画についてご説明申し上げます。先程、市長の黒田より諮問理由についての説明があったところですが、もう少し計画の概要についてご説明させていただきます。交野市環境基本計画は環境基本法に基づき、市町村が区域の自然的社会的条件に応じた、環境の保全のために必要な施策を総合的かつ計画的な推進を図ることを目的とした中長期的なビジョンを示す計画です。

現行の計画は、2012 年、平成 24 年 3 月に定められ、2021 年、令和 3

年、3年度までの10年間を対象として、二酸化炭素排出量の削減や、市民等との協働による活動を通じて環境保全を推進することとし、「緑地面積の維持」「二酸化炭素排出量の削減」「ごみ処理量の削減と再生利用率の向上」「河川水質の維持向上」を指標に掲げたところです。

中でも、取り組み内容としては、大きく四つの分野に取り組んで参りました。自然環境分野では、里山保全を目的とした竹林伐採活動や、自然と触れ合う講座の開催、エネルギー分野ではエコドライブ講習や、太陽光発電パネルの普及啓発、エコ生活分野では、食品ロスをテーマとした講座やゴーヤによるみどりのカーテンいわゆるグリーンカーテンによる室内温度抑制といった生活に密着した活動に取り組んでまいりました。まちづくり分野では自転車の活用促進による、CO₂を排出しない移動手段の啓発を行ってきたところです。

次に計画の策定から8年が経ち第二次計画の策定を見据えた昨年度には、第三者による現計画の評価・検証を行いました。評価検証の報告書は、資料の13ページから36ページにあるとおりでございますが、要点を説明させていただきます。

34ページ中段以降に、計画の指標は重要とされる環境課題の指標四つが選定され、適切に数値管理もされていた。

ただ、四つの指標と四つの分野、プロジェクトの関連性が決して高くなかった。また計画に掲げる目的、目標と、その達成に資するプロジェクトの効果が、明確に連動する仕組みづくり、すなわち計画体系そのものに工夫が必要であったと考えられる。

今後は、上位計画にあたる国や大阪府の環境基本計画の枠組みや指標等を参考にすることが望まれる。との評価・検証を行ったところです。

そこで、次期計画策定に向けてのスケジュールですが、39ページをご覧ください。

まず本審議会でございますが、本日の諮問、案件説明後、11月下旬から、12月上旬を目安に、第2回目を開催させていただき、次期計画の概要説明の機会をいただきたいと思いますと考えております。また、2月に第3回目を開催させていただき、答申をいただければと考えております。もちろん必要に応じて随時ご説明の機会を設けてまいりたいと思っております。

次に審議会以外のスケジュールですが、市民の皆さんへのパブリックコメントは、1月に行う予定です。

また、現在までの計画策定のプロセスでございますが、7月に市民及び市内事業者へアンケートの実施、また市議会の説明及び、公募市民、有識者、工業会、商業連合会、環境保全活動団体からの推薦者と本市職員からなるワークショップと次世代を担う中学生から構成される中学生ワークショップジュニア委員会を実施し計画素案に向け取り組んでいるところでございます。

次期計画の基本的な考え方でございますが、43ページをご覧ください。次期計画は国が示す第五次環境基本計画及び今年3月に策定されました、大阪府の2030大阪府環境総合計画と、本市の第四次交野市総合計画を上位計画と位置付け、長期的なビジョンを視野に計画の策定を行ってまいります。

国では 2020 年 10 月に、2050 年までに温室効果ガスの排出を、全体としてゼロにするすなわち 2050 年カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現を目指すことを宣言するなど、地球温暖化対策を巡る大きな分岐点を迎えていることから、現在の上位計画との整合性を図りながら、策定作業を進めており、中長期的なビジョンの共有はもちろんのこと、取組むべき事項・分野についても国、大阪府と連動すべきと考え、次の 4 項目について検討を行っているところです。

一つ目、エネルギー分野、交野市としてどのように、CO2 削減に取り組むのか
二つ目、生物多様性分野、里山保全をはじめ市の魅力のひとつである自然環境
三つ目、循環型社会の構築、ごみの減量リサイクル等に対する対応
四つ目、生活環境分野、ここでは大気・騒音・水質に係る環境問題
の 4 項目を柱とすることが、交野市のまちなみ環境と上位計画にあたる大阪府の環境総合計画との関連に整合させてまいりたいと考えております。

最後に長期的視野で目標とすべきは 2050 年カーボンニュートラルであると考えます。

また、その目標達成に向け、交野の環境に係る「現状を知り」「未来について考え」「行動する」ことを後押しできる計画を策定することを基本的な考えとしております。

簡単な説明でございますが、これで諮問案件についての説明とさせていただきます。

委員長 事務局からの説明がありました。少し整理して皆様のご質問・ご意見をいただいていると思っておりますが、大きくは三つで、まず一つ目は現計画の評価・検証ということで、資料が、13 ページから、36 ページということになっております。

お手元の資料の 13 ページから 36 ページに現在の交野市環境基本計画の評価・検証報告書が添付されておりますが、ざっと概要のみのご説明であったかと思っておりますので、少しお目を通していただいて、検証について、ご質問やご意見があれば、お願いします。

委員 ちょっと、内容が気になるところがある。20 ページの河川水質なんですけれども、ちょっと川は、大体わかるんですが、その川が多分ここにいらっしゃる方はこの川がどこにあるかっていうのはわからないですし、ましてやこの川の中のどの地点で水を採っているのかっていうことも、抜粋版かもしれないんであれなんですけど。普通はそういうのをちゃんと載せて、地域のところかという、そこの何が有用かというそこの採った水の代表性がちゃんと担保されているか、どこの地域のどのエリアのどういうまち、あるいはどういう、工場地帯というものの水質を反映しているのかわからないと評価できないと思うんですね。これだけで、何か交野の水が良いとか悪いとかを言うっていうのは、ちょっと乱暴なのかなと思いましたので、このバックグラウンドのデータといいますか、まず、川の流域あるいは、それぞれどの地点での採取をしたか、そ

の採取地点の流域というのは、どのエリアが入っているのか・・・。

私、これにこだわりますのは、例えば交野と枚方の境界ぐらにある、ここでいうと「がらと川」「野々田川」あそこが京阪でお昼とかたまに帰ってくると夕方でもそうなんですけれども川が流れてるとですね泡がすごかったり、あるいはたまにどっかの工場から流出したと思われるピンク色の液体で川がピンク色になったりするという現象をよく見ていまして、あともう一つはまだ、交野市は下水道が来ているのに下水道に切り替えていない。ようするに生活雑排水を今そのまま川に流している方が相当まだ居ると。で、見たらすぐ判るんですよね。その前の川がドブ川やったらそれがそうなんです。

ドブになるということは下流のほうの地盤の低いところはそうとは限らないところもあるんですけれども、あの例えば、住宅地でドブ川になっているということはその生活雑排水で非常にCOD,BODの高い米のとぎ汁とかですね、もうそういうのもそのまま流れて、それが腐ってドブになるわけですから、もう見たらすぐわかります。あれをいつまで続けるのかということですね。

要するに下水道がきているのに、そのつまりご家庭の事情でつながないということやいつまで続けさせるのか、ということもあって雨がやんでいるのに一向に交野の水質は改善されないし、子ども達が例えば川で遊ぼうと思ったらそんな、怖くて遊ばせないし、汚くてね。そういう所に切り込んだような今後の対策の基本計画にはそういうのをちゃんと盛り込んでもらえたらと思います。

委員長 はい。それでは今のご意見を少し整理させていただきます。

資料の 20 ページ資料4 河川水質というところの指標が天野川の環境保全目標値（BODが3ミリグラム/リットル）相当にしますというところのデータが示されてまして表が上段、下段2段あります。そちらに指標、川の名前から上段が平成24年度2012,2013と年度ごとにBODの最小値と最大値、平均値が示されておりましてけれども委員のご指摘は川が何処かというような詳細な位置図のようなものを公開して欲しい。それから、いつ、どの流域で採られたかなどですかね。

委員 要は、流域の調査地点によって、どこがカバーされてて逆にどこがカバーされてないのか、流域図と調査地点、サンプリング地点をここのサンプリングはどこを流域を示しているっていうことをやっているとその重なり具合からその範囲からあの、例えば僕が見たところ、そこに流れている僕らのところ、前川とか反映されているのかなというところがわからないんで、川エリアが全然わからないこれだと。あの地元の人でもこれ見ただけでは多分わからない。結局、川のこと詳しく知ってる人でないと。そういう図面を示していただいて、ちゃんとこれが適正にカバー、・・・全域が網羅されているっていうのか、あるいはある偏ったエリアだけを対象としているのかということさえ僕らにはわからない。というところでそういうのを示すべきではないかという指摘です。

委員長 分かりました。委員ご指摘の調査の範囲とかそういった情報っていうのは現在すぐにお示しすることはできますでしょうか。事務局のほうで対応できますでしょうか。

事務局 事務局の魚住と申します。私の方からご説明させていただきます。
川の採水場所と流域の特徴について聞かれていますと思いますが、それでよろしいでしょうか。

まず、採水場所については天野川では3地点採水しております。3地点のうち1地点目が羽衣橋といまして交野市域交野市と生駒、四條畷のちょうど境目の交野市でいうと一番上流の部分にあたる部分で採水しています。天野川の2地点目が逢合橋のところで採水しております、天野川の、交野市では中間にあたる場所です。3地点目は、一番下流部分に辺り枚方市境のところで、藤田橋になります。

委員 藤田川の合流点、それとも村野小学校、村野中学校の辺りですか。

事務局 村野中学校よりは上流で、がらと川は入っておりません。
天野川を除く川ですが、星田中川、江尻川で野々田川、がらと川については交野市域の中でも割と工業地域の中を流れる川になっておりまして、星田中川については、新関西製鐵の東側を流れる川で、天野川の合流地点の直前で採水しております。江尻川については、もう一本、枚方市寄りになり新関西製鐵の西側から流れる川になり、枚方市との市境で第二京阪側から大阪方面に向かうコーナンの辺りで採水しております。野々田川、がらと川についてはどちらも似たような地点で測っています。こちらの二本の河川はともに枚方の工業地域付近と交野市の幾野の工業地域を流れる川となり、野々田川とがらと川が合流する出鼻橋で採水をしております。傍示川については、雨水と生活排水が流れる川になります。交野市域を流れるほとんどの川が天野川に合流していますが、傍示川だけは寝屋川水系になりますので工業地域を通過しておりませんが、流域が違うことから検査対象としております。傍示川の採水地点は星田の学研都市線の高架下付近で採水しております。これは寝屋川市域との市境にあたる場所で交野市域としては一番流末になっております。以上が採水場所と流域の特徴になります。

また、位置図については、毎年、交野の環境という冊子に掲載し発行しており、ホームページでも公表しておりますので、よろしく願いいたします。

委員長 ありがとうございます。よろしいでしょうか。

委員 僕、今の説明で分かったのですが皆さん多分全然わからないと思うので冊子を配っていただいたらと。

委員長 冊子を見ていただくか、必要な部分はホームページで公開しているというこ

とです。

事務局 失礼いたします。今、ご意見についての説明資料について手元にございますので、委員の皆様にお示しさせていただきたいと思ひます。

委員長 それは、本日無理なので次回ということですか。

事務局 「交野の環境」という冊子がございますので、今この場にお持ちして、お配りさせていただきたいと思ひます。それ以上に詳細にということでありましたら、我々のほうで資料をお作りさせていただきまして、委員の皆様にお送りするという形をとらせていただきたいと思ひます。

委員長 いかがでしょうか。冊子を配っていただひて確認していただひいということなんですけれども。

この件につきましては確認していただひて追加で何かあるようでしたら次回の環境審議会を確認するということがいかがでしょうか。

委員 下水道のたとえば接続率、普及率と水質のBOD、COD、工場っていうところでBOD、CODの高い排水を直接川に流している工場もわりとあるかもしれないですけど、やっぱりあの生活雑排水っていうのがあの米のとき汁に代表されるようなものについても相関とかちょっと深堀りしたその分析みたいなやってないのかとかですね、そういうので一番気になるのが、いまだに下水道に接続してないところの生活排水が、朝とか川が泡だってところを見るんですけど、例えば洗濯の水をそのまま流さるわけですよ。下水に接続せずに、そしたら洗剤の泡がそのままいきます。滋賀県では、そんなことできなくなっているのに、それをいまだに交野でやってるっていう。後でちょっと地下水の話しに繋がるんですけど、そのへんやっぱり考慮していただひたいという話です。すみません。

委員長 下水道の接続率状況などは検討されているかということがいかがでしょうか。願ひします。

事務局 失礼します。下水道の接続率、地域別率は環境衛生課では持ち合わせておりません。ただ、今、委員からお話のありましたように、生活排水が各流域に流れているというようなところでは下水道が接続できる地域であるにもかかわらず接続されていないことがあったりだとか、下水道の接続ができないので、浄化槽を使われたり汲取りを使われたりという地域も交野市域には存在いたします。お答えになるかどうかわかりませんが、地域別の下水道の接続率というような形の資料については下水道課に確認させていただきたいと思ひます。

委員長 それではこの後、次期計画のこともありますので、「交野の環境」の冊子に

については、ご準備いただけたらと思います。
その他ご質問があれば、お願いします。

委員 21 ページの評価検証報告書の部分で自然環境分野のところの表の4ですけれども達成度が三角になっていますが、あの評価の基準が「在来の動植物の種類と生息数が増えている」というのが基準に対して、結果が調査19回ということで増えたかがかわからない。また、23 ページのエコのところをいうと三角が一つあるんですけど、これはマニュアルが出来ているか、出来ている、出来ていない、丸ペケなんですけれども一部完成なので三角なのか。三角の意味をですね、調査結果それと課題の生息数種類という認知したいので、事務局のほうでご意見あれば、あの特にこだわりはないのですが凡例で三角の注釈を入れるなどが有った方が良かったかなと思いました。

委員長 お願いします。

事務局 はい。この13 ページから34 ページでお示させていただいております評価・検証につきましては、昨年度、実際に環境基本計画を8年間推進した結果を見て、今後の計画を新たに作るため、現時点での計画の推進状況についての外部評価を行った結果でございます。それぞれの分野で指標・目標を掲げて様々なプログラム、プロジェクトを推進してきたところでございます。

まず21 ページの4のところ「生きものいっぱい豊かな川づくり」というところでございますが、その業務検証を行った時点では調査会、要するに生きもの調査や植物調査を行っているものの比較対象とする指標の部分まで至らなかったことから三角との判定であったと認識しております。このように、凡例については対象項目においてそれぞれの基準が異なっていることから、出来たか、出来ていなかったか、その途中であるかで捉えていただけたらと思っております。

委員 まだ、調査結果が出ていないという意味ですか。

事務局 調査は行っているものの結果が出ていないということです。

委員 8年間の結果についての評価なのでということですね。今後、調査報告はあるのですか。

事務局 今後、改めて評価検証を行うことは現時点では考えておりませんが、今現在、活動の中で「交野しぜんしらべたい」と称する活動を交野市の広報を通じて発信を行い継続的に記録・蓄積している状況でございますので、その結果を発信することで今後の評価に繋がるものと考えております。

委員 わかりました。

委員長 ありがとうございます。それでは、その他で13ページから36ページまでの評価検証をした中でご質問があればお願いします。

委員 19ページにごみの排出量のところで「ひとり1日あたりごみ排出量を全国平均値と比較すると交野市は全国平均を大きく下まわっている」ということで、これはすばらしいことだなと思いますが、類似する全国94の自治体とを比較したごみ処理に関する偏差値はひとり1日あたりのごみ排出量は高い偏差値で平均を上回っている。とありますが、偏差値が高いというのは、結局ごみの一人当たりの排出量がこの94の市町村と比べると高いということなのか、それともよく減らして達成度が高いということなのか、教えてください。

委員長 お願いします。

事務局 はい。これは達成度が高いという意味合いの示し方でございます。

委員 安心しました。ありがとうございます。

委員長 ありがとうございます。その他。
特にならなければ次回のスケジュールに移らせていただきます。もし、まだご質問等が出てくるようなら、最後にでもお聞きしたいと思います。
それでは次の説明があるのはスケジュールというのが37ページとか39ページですね。示されています。第2回の開催が11月末から12月ということで確定されており、第3回は2月ということですが、これについては皆さん、何かご意見いただければと思いますので。
最後の次の新しい第二次交野市環境基本計画の基本的な考え方ということで43ページを中心に説明していただきましたけれども、ポイントは43ページの表にある長期的なビジョンのゼロカーボンシティを目指すということと、計画期間はまた、10年間、それから目標、指標等は現行では四つの指標が示されていましたが、第2回に出てくるという理解でよろしいでしょうか。次回でいろいろお示しいたしますので、またその時に審議いただければと思います。その他、想定する施策や方向性というのもまだ、目標が出てきませんので、今後ということになろうかと思えます。
本日はご審議いただきたい基本的な考え方についてできればもう一度、基本的な考え方を説明ください。お願いします。

事務局 はい。回答いたします。表紙ページにもございますように先ず、上位計画としては、国も新たな環境基本計画を今、策定中でございますが、今現在としては第五次の環境基本計画に基づくところでございます。大阪府につきましては2030年大阪府環境総合計画が、今年の3月に策定されたところでございます。これら国、府の重点施策を踏まえながら交野市の上位計画となります現在

の交野市第四次総合計画との整合を図る計画とすることを想定しております。49 ページは第五次基本計画の国の方向性を示したものでございます。また、次の 50 ページには国が掲げる 6 つの重点戦略について掲載しております。52 ページには 2030 大阪府の環境総合計画を掲載しております。めざすべき将来像として「脱炭素・省エネルギー」「資源循環」「全てのいのちの共生」「健康で安心な暮らし」「魅力と活力ある快適な地域づくり」が掲げられております。本市といたしましても、「地球温暖化対策」今後 2050 年カーボンニュートラルを見据えて今できること、長期的にできることなど様々なことを考えながら脱炭素、省エネルギーについては一つ目の柱として考えております。次に、「循環型社会の構築」についてですが、先程もごみのお話しが出てまいりましたがごみの減量化、ごみになる物の購入を控えることで、ごみの減量化に繋げるということや、プラスチック製品の取り扱いも重要な考え方の一つに据えつつ、循環型社会の構築というのが二つ目の柱だと考えております。次の「生物多様性分野」につきましては無作為に抽出した市民 2000 名を対象にこの 7 月に行いましたアンケートの回答と、商工連合会様、工業会様に加盟されている事業者様からいただいたアンケートでも関心の高かった、交野の緑、自然に関する事項及び市域の約半分を占める里山をどのように保全していくのかといことも重要であることから「生物多様性分野」を三つ目の柱と考えているところでございます。次に、「生活環境分野」というものを柱として、大気、騒音、水質と様々な生活環境に関する分野を示してまいりたいと考えております。第二京阪道路が開通して 10 年が過ぎました。皆さんも感じておられるかもしれませんが、当初心配されていた騒音や大気の状態は良好な状況です。これは 10 年前に比べて自動車の性能が向上したことも影響していると思われませんが、今後も大気、騒音等、環境監視は続けていく必要があると考えておりますので、生活環境分野を四つ目の柱として計画を策定していきたいと考えているところでございます。

委員長 ありがとうございます。

ポイントは国や大阪府、上位の環境計画と整合性を保ちながら交野市の環境基本計画を作成するということです。それを今説明されていましたが、資料の中に当てはめていくと、51 ページに記載されている国が掲げる重点戦略を支える環境政策が参考になるのかなと思いますけども。

51 ページにご説明いただいた六つがあげられていますけれども、まず一つ目の地球温暖化対策が「気候変動対策」というところに当てはまるかと思えます。次に循環型社会が「循環型社会の形成」にあたり、生物多様分野が「生物多様性の確保・自然共生」にあたり、生活環境が「環境リスクの管理」に該当するといった具合ですね。交野市の新しい環境基本計画の中では、この四つを視野に具体的に指標や施策を進めていただくということだと理解しましたが、それでよろしいでしょうか。

事務局 そのとおりです。

委員長　では、その四つについて、それでいいのか、あるいはもっと増やして欲しいとか、ご意見があれば、どうぞお願いします。

委員　何度もすみません。43 ページの④の「想定する施策」のところでぜひ増やしていただきたいのが、先程私がちょっと申しました地下水の話です。交野市はご存じのように、水道水源の7割ぐらいですか、地下水に頼っておりまして、先日、水道管が破裂して大騒ぎになりましたけれども、その地下水ですね、実は交野市の水道水源のペットボトル入りのボトルウォーターが、モンドセレクションの最高金賞、2019 年に受賞したと。これは水を売っている自治体が全国数多くある中でやっぱりそのモンドセレクションに持って行ってこられたという市の職員の方のすごい大快挙だと僕は思っています、非常に素晴らしいことをされたなど、世界的評価を勝ち取ってきたというところに、非常に価値があると思っています。大阪府さんの方がいらっしゃる前と言うのもちょっと恐縮なんですけれど 52 ページのツリー図を見て、私これね、決定的に欠けている部分があると思うのは根っこなんです。要は木っていうのはその地上部、地上のある物だけで成り立っているわけじゃなくて実は根っこが大事でして、根っこの部分について今の交野市のこの第二次の計画の中に、ほとんどその地下の部分の環境保全という視点が決定的に僕は欠けているのではないかと。先程の我々交野市民はみんな地下水に対して多大なる恩恵を受けているのにも関わらず、その毎日飲んでる水を保全するという考えが、この計画に無いんです。例えば 47 ページの SDGs の旗ですね。例えば、ターゲット6に「安全な水とトイレを世界中に」というスローガンがあるんですけど、安全な水っていうのはまさに地下水でして、例えば何らかの事情で地下水以外の水源に支障が生じた場合、我々が飲む水に影響するわけです。だからこそ地下水を守ろうという発想が見られない。

の「それと、後のほうの資料ですけど、ちょっとどういう資料なのかももう一回説明欲しいんですけども、あのブルーの絵。56 ページ“かたのサイズ“をめざす像ということで、これはどういう意図で作られたのか、もう一回説明してもらいたいんですけども、例えばその 79 番のところに「おいに誇れるおいしい水道水が毎日飲める」ということが書いてある。ところがですね、この担い手についてはですね、市民も地域も団体も事業者もいっさいこれに関わらない。行政だけの宣言事項と書いてあるわけですよ。例えば、その右図右の表に 79 番のところで「関連する主な施策分野」のところで環境共生、都市基盤の二つしか関わらない。私の専門の立場から言いますとこれは大いに偏っているとわざるを得ない。なぜかと言うと、当然市民も関わってくるはずで、市民の意識が低くて自分たちの地下水を守るといった意識が低い人達がいれば、有害な物質をそのへんに捨てたり、汚い水を川に流したり、例えば自分の庭に有害な物を放置したりして、それが浸透して何年か経ったら、水源のところまで到達する。ということに対して全く想像力が働いていないわけです。そういうことが平気のできるということがね。地域をあげて色々地下水を保全するとい

う活動が必要ですし、企業の場合は企業倫理が問われます。例えば、工業用水、工業排水を流す。自分の事業所内で有害物質を地下浸透させてしまう。それは、意図的だけでなく、非意図的にも起こり得ます。例えばよくあるのがガソリンスタンドでタンクから油が漏れたとかですね。そういうことも、よくあります。だからこれがですね、ここに空欄になってますけど、みんなでここにある全ての担い手が考えなあかん。であと、右の79番、右側の表の所ですけども、例えば、防災安全分野も白抜きになってますけど、交野の地下水は災害の時にもですね、非常に水処理が簡単です。地下水ですから。であと、生活環境、当然生活環境に関わることであり、であと教育、要するに先程あのもっと小学生とか中学生の教育っていう価値がある、あれ大事です。それが小さい頃から、そういう環境教育、地下水を守るっていう教育をすることで意識を高めることが重要。都市計画もそうですよね。都市計画で全く地下水に対して配慮のない都市計画をした場合には当然、地下水は汚染されたりします。で、経済活動もそうですし、その地下水が綺麗ということが、都市の魅力にも繋がります。でそういう情報を広報で発信して先程のあの交野の星のしずくきらりとういミネラルウォーター、モンドセレクションで最高金賞まで獲った水を交野の誇りとして売り出していく。そういうことにも繋がるので、その行政経営もそうですね、ですから、この環境基本計画の素案にはですね、そのあたりに全く思いがいたってないというふうに私からは見えます。ですので、もう一回ここを練り直していただけないかと、いうふうなことを強くお願いしたいと考えております。

委員長 事務局どうぞ。

事務局 はい。ご意見ありがとうございます。

失礼します。53 ページから 56 ページまで、記載させていただいている内容のことについて、まず説明させていただきます。

まず、先程出てきましたが、この計画の上位計画にあたる現在の第四次交野市総合計画基本構想がございます。これが2011年（平成23年）の春に3月に策定され、2022年度までが計画年度にあたりますので、こちらの内容はその計画中に関連するところを説明するというところで、ここにお示ししているところでございます。委員の仰っていただいているように79番に「おおいに誇れるおいしい水道水が毎日飲める」について、「様々な活動目的、成果指標として活用します。」というところは当時、「かたのサイズを目指す像」の項目として示された内容でございます。仰っていただいているように今後、災害時対応の観点からも水は、大変大切なものでございますので、その辺のことも今後は入っていくのであろうと思っております。また、総合計画も22年度が最終年度となっておりますので、今後さまざまな形で策定に向けてみなさんの目に触れる機会もあるというふうに考えております。

地下水について環境基本計画に見えていないとのことでございますが、柱といたしまして先程申し上げたような四つの項目の中で今後また、地球温暖化対

策等エネルギー分野、生物多様性分野、循環型社会の構築、生活環境分野がございます。今後どのような形で発信するかというような所を考えながら、例えば生物多様性分野や生活環境などの項目中で地下水のことについても組み込めるような内容になるかもしれないと感じておりました。

今後については、どのような形でお示しできるかわかりませんが、今回のご意見については一つの考えとして承ります。

委員長 はい。整理をさせていただきますが。

施策に対するご要望がまず一点目あったと思うんですけど。

43 ページに載せられている想定される施策というのは確定したものではありません。今後、四つの柱で良いということになれば、次回それに沿って指標や施策を作っていくとのことで、今日は四つの柱で良いかというのをご審議いただいて、ご要望のあった事項については次回、事務局の方で検討していただいて、あと 53 ページから 56 ページに関しては今の事務局から説明で納得いただけたでしょうか。

委員 現在有効なものだけど、昔につくられたものですね。

事務局 そうです。今現在、有効なものを示させていただいております。

委員 じゃあ、次はこの観点で入れていただける方向でお願いしたいですね。

委員長 次のご要望ということで。はい。お願いします。
他に何かございますか。

委員 すみません。

四つの柱が出てきた一番根本にあるのが、温暖化対策なんじゃないかと思うんですね。温暖化が物凄い勢いで来ていて、多分これ引き返すことのできないぐらいになっていて、なるだけ温暖化のスピードを抑えないと、抑えるのが、精いっぱいぐらいになってると思うんですけど、そういう切迫感みたいなのが、今のお話を伺っている中ではよく分からない。例えば 2050 年までにカーボンニュートラルとか言い始めてますけど、なんでそういうことを言い出したかと言ったら、これ以上温暖化が進んだら、地球が壊れちゃうからということが根本になって、世界中で何とかしようということになってきていると思うんですね。やっぱり、今の時点で次の 10 年を見据えて新しい計画を作成する時には、その部分は外せないんだらうと別に危機感を煽るつもりはないんですけども、温暖化が先行してきているために、例えば、気象の極端化。気象現象の極端化がおきていて、日本でもとんでもない線状降水帯が発生するようなことがおきていたり、それから 3 年前でしたか、大型の台風が大阪を直撃して大阪市内でも植物園でも、交野市でも巨木がバッタバタ、根こそぎひっくりかえるようなことがおきてます。そういうことの根本原因がやはり温暖化

であって、そこを何とかしたいから、例えばエネルギーをバイオマスで選べるものにしましょうとか、化石燃料に依存しないようにしようということになってるんだと思うので、再生可能エネルギーに変えていかなきゃいけないということが分かるような計画にしていきたいと。柱の中に入れるのか柱の大前提になるのかわからないですけども、この観点をぜひ入れていただきたいなと思いました。それとひょっとしたら、あの防災という観点の言葉が必要ではないかと思いました。国の資料の中には東日本大震災の復興も有ります。今、申し上げたように気象の極端化による自然災害が増えてきています。そういう災害に対して対処するというのも、もちろん大切なんですけど、根本的になるだけそういうことが起きないようにするためにはやっぱり温暖化を今、少しでもいいから引き止めないといけない。そのへんのところが伝わってくるようにしていただけたらなと思いました。それと、53 ページからの資料が 10 年前に作成したものだったということなので、「交野サイズ」という言葉がまず疑問に感じてしまって、その当時はそれが、非常にフィットしていたものかもしれないですけども、何かこれが次の交野の在り方を表す言葉として例えば交野スタイルとか、サイズという言葉が出てくると、交野は市町村としては小さい。だからいいのか。私はいいと思いますが、サイズという言葉で表すのが良かったのかどうかもちょっと疑問に思っていました。次にもキャッチフレーズを作るんだしたら、もうちょっといいのがあるかなと思います。

委員長 ありがとうございます。

事務局 はい。失礼します。委員が仰っていただいたとおり、今度の環境基本計画を作るにあたっては、委員ご指摘の部分が、大前提になるのかなと事務局でも考えております。

事務局といたしましては、3年前から、国が掲げるクールチョイスの普及啓発というような形で国の補助金を活用しながら、活動を行っているところです。その中で環境省が作成した気候変動の現状と将来予測を収めた DVD に収めた映像資料を催しなどで放映して見ていただいたりとか、特に小学校4年生を対象とした環境教室をというところに我々も力を入れておりまして、3年前は第二中交校区、2年前は第一中校区の小学校を対象として、今年は第三中校区の小学校、旭小学校、星田小学校、妙見坂小学校の3校で行っています。こうした活動を地道に続けてやっているとございまして、本当に地球温暖化対策は喫緊の課題という認識を持って、次期計画に反映して行きたいと考えているところでございます。

委員長 ありがとうございます。

今のご意見をふまえて、具体的な指標・施策に反映させていくということで、次回にお願いします。

委員 何度もすみません。先程 43 ページの目標のところですが、指標例とは書い

てますけども CO2 の排出量の削減等ということで、ちょっと違和感を感じるのは、確かにグローバルな地球温暖化の問題というのは大事な問題で、我々、市民であろうが、大阪府民であろうが日本国民の立場であろうが取り組まなければいけない問題だと思うんですけど、その中で想定する交野の施策が全てこの、例えば市独自の支援制度の確立というのは、例えばこの再生エネルギー導入の為に支援という言葉で語っているいわゆるそれを前提としていて、それに繋がらないような先程私が申し上げた地下水の話し公害の話しなどは CO2 の削減に対して全く関係ないわけではないんですけども、あの一義的には、すぐには繋がらない地下水の水質保全なんて話しはね。そういうことを考えると、この四つの柱と言いながらその柱の三つまでは全部地球温暖化どうし紐づけられるんです。交野の環境基本計画としてそのカバーしているエリアが、その四つのうち三つまでが、地球温暖化対策に偏ってて、それで本当にバランスのとれた市の環境基本計画って言えるんでしょうか。この中の一つとして地球温暖化対策をする。そのアクションプランとして再生エネルギーの導入、市独自の支援制度、例えばソーラーパネル補助金、例えば大容量蓄電池の補助金、けどそれだけでカバーできない身近な環境問題もあって。例えば先程の下水道のドブ川の話しがいつまでもドブ川を残すんやという話しとかが、この中ではカバーされていないくて、10 年間そればかりやっていくんですか、という所をちょっと聞きしたい。

委員長 はい、どうぞお願いします。

事務局 先程、委員が仰っていただいたような地球温暖化に対する考え方っていうのは喫緊の課題であるという認識を持っているということは確かなことだと思います。

今、委員が仰っていただいたようなところで、地球温暖化対策だけが、交野の環境ですか、というような部分につきましては、もちろん喫緊な課題として重要なことであるという認識は持っておりますけれど、それだけでというふうに思っているところではございません。先程、申し上げたように、繋がる部分は色んなところであると思います。例えば、森林伐採についても適正な森林伐採をすることで樹木が成長していく、CO2 を吸収するというようなところを考えると、温暖化対策にも貢献します。また、里山保全により、地下水の涵養であったり、山の防災対策に繋がると、我々は考えておりました、全てが温暖化対策だけでなく、さまざまな分野への繋がりがあると考えておりますので、ご理解をいただけたらと思っております。

委員長 よろしいですか。

委員 私は、全ては地球の命に繋がっていると思います。根底にそれが無いと環境基本計画って意味が無いことであって、地球がこのままじゃ危ないということであると思いますね。それに枝葉が有って、いろんな意味で広く様々な活動あ

る。委員が仰ってる交野独自のとか言いますけど、私は全て地球温暖化ということが、根底にあると思います。

委員長 はい。ありがとうございます。

まずは、その想定する施策が四つ柱の全てカバーできていないのではないかとこのご指摘のように思いますので、本日四つの柱でいこうとご承認いただきましたら、次回には目標と、それから想定される施策等をリンクさせて整合性のとれるように次回までに作っていただいて、また第2回の環境審議会でその辺のことをご審議いただくという形にさせていただきたいと思います。よろしいでしょうか。

委員 ああ、意見というか、アドバイスだけ事務局さんへ。大阪府では昨年度、環境総合政策を作りましたけれども、これを受けまして今年度、今やってる最中なんですけど、それに基づく大阪府の生物多様性地域戦略部会とう部会を今、作ってまして、その中で生物多様性の大阪府独自の個別計画を作り、具体的な施策をそこで作りなさい。ということで、今大阪府の方で、みどり関係で部会を作って審議している最中でして、あの奇しくも、この計画と同じく今年度末に作るということになってますので、その辺のアンテナ広げていただいて少しでも府と連携しながらいいところ取りをしてもらったらいいのかなというふうに考えております。もう1点、まちづくりに緑を使いますと、ということで最近言い出した、グリーンインフラ、緑をインフラに使っていきましょうという、例えば防災林として昔から木を植えてますけども、そういうものがグリーンインフラと言われるのですが、例えば空き家ですが、都市部で空き家が増えていると、例えばこれを除却した後に農地を作って、そこを分譲して農園にしたら、なにかあった時にはそこを防災用地として町の避難場所にしましょうというようなこともできますし、先生が仰ってた防災井戸という観点からも、そういったまちづくりの中でも緑の部分が1から4の中でこういった部分で使えるかはわかりませんが、そういう形でも活かしていけたらいいのではないかとこのように思っております。

委員長 ありがとうございます。
はいどうぞ。

事務局 ありがとうございます。

委員の仰っていただいた意見についてですが、39 ページのスケジュールご覧いただいてよろしいでしょうか。6月から市議会の説明を踏まえてワークショップの開催と、中学生のワークショップというものがございます。すでに今まで第4回のワークショップを重ねてきたところでございます。そのワークショップの委員の方々には、大阪府の環境農林水産部のエネルギー政策課から委員になっていただいている方や、また、生物多様性分野では地方独立行政法人大阪府環境農林水産研究所の生物多様センターからも委員を派遣いただいてワー

クショップを重ねておりまして、昨日のワークショップでも生物多様性のトレンドといいますか、今の流れというようなこともご紹介いただきながら進めさせていただいたおられます。また、そのような形のもとでやっていくというようなところもお伝えできればと考えています。

委員長 ありがとうございます。
 その他。どうぞ。

委員 立派な基本計画ができて、それをどのように運営にして達成するかということが大事だと思います。それは、もう庁内一体となって市民も事業者もみんな一体となってどのように運用していくか、といったところが一番大事なかなと思ってまして、第一次の環境基本計画は進捗管理というところがすごく漠然としてまして、この数値までいこうとかそういうことが一切出てない基本計画なんです。あの、総合計画の方も進捗管理がやりにくい、先程、意見のあった53 ページとかね。「暮らしの夢から“かたのサイズ”」の夢を描いてこんな交野になったらいいなということが、市民みんな考えて出したイメージを現してて、どうやって進捗していったどこまでするのか弱かったと思います。次の第5次の交野市総合計画では、私も審議会に入りましたのでそれを掲げて行きたいと思っています。

委員長 第二次にはそういったところことにも配慮すべきということですけども。

事務局 はい。外部の評価・検証でもご指摘をいただいているところでございますので、それについては、十分踏まえて対応していきたいと考えています。

委員長 政策等で取り組んでいただく。それ以外に何か。ございませんでしょうか。どうぞ。

委員 資料の繋がりが把握できていないので、この43 ページのところは環境基本計画の方向性というのは交野市の考え。44 ページは国の考え。45 ページは大阪府の考え。だということですか。今どこまでが、交野の環境基本計画の内容として決まっているのか、この資料の要は43 ページの中身を決めていくということですかね。

委員長 はいどうぞ。

事務局 はい、先程スケジュールを見ていただいたとおり、第4回のワークショップまで進んでますよということで、様々なことについて議論を進めさせていただいているところでございます。

考え方について想定できることを43 ページに記載させていただいております。委員仰ったように44 ページは国が今示している内容を分かりやすく書か

せていただいたというところでございます。45 ページについては同じく 2030 大阪府総合計画で掲げられている内容を示させていただいたというところで、今、第4回を終えまして、これから内容について、概要を固めていくところでございます。

委員 であるならばですね、やっぱりあの例えば 44 ページの国の施策の中に「重点戦略として次の6項目を設定」というところで、例えばですよ、「地域資源を活用した持続可能な地域づくり」で、地域資源とは何かというところで、僕がさっき言うてた「想定される施策」の中に地域資源の交野の地域資源の最も交野って本当に資源もないところで、産業もあまり、例えば大きな工場があったり、大きな事業所があるわけでもない、どちらかという、ベッドタウンと呼ばれるような、町ですよ。ですからそういう点で地域の資源っていったところで、同じことになりますけれどもその地下水というところの保全というのが非常に重要だと考えている。だから、全ては「地球温暖化に繋がる」と仰りましたけれど、正直言って最近の地球温暖化のブームで全ての環境問題が地球温暖化に集約されるかのような報道とかなされてて、それで地球温暖化が環境やっていうような空気になってしまっているところがあると思うんです。地下水は地球温暖化が出ないということになってくる。なってくるから、ここに何も盛り込まれてないんですよ。交野の流れている水っていうのは流れているだけじゃなくて地下にも浸透してるし、周りからも湧き出しているんです。だから、そういう相関関係にある中で、河川水を守るっていうことも、一つの環境を守ることになります。10 年後から見た時に、この時は地球温暖化がブームだったんだね。たぶんそういうこと。だから、基本計画っていう基本がもの凄くその地球温暖化っていうブームの方にだけ寄ってて、下水道の話もそうですし、家庭排水の話もそうですし、そういう本当に、あの、日々やらなあかところ、スポンと抜けてるような環境基本計画でいいんですか。

委員 はい。

委員長 どうぞ。

委員 すみません。地球温暖化をブームに置き換えられるのは、心外です。気候変動、地球温暖化対策は、緊迫感を持って考えないといけない問題で、ブームでは決してないと思っています。

委員 私が、地球温暖化の問題を大きく言ってしまったので、私は、地下水の問題は非常に重要だという意見には賛成です。交野の地下水が非常に貴重だと思うのは、この地下水を作り出しているバックにそんなに大きな山系はないんです。だからそこをちゃんとしないと水はあっという間に駄目になると思うし、今、これだけ宅地開発が進んでますから、ほったらかしておくとなんか本当に井戸の取水、井戸が枯れてくるとか、色んな問題が起きてくると思いますので、これは交野

の守るべき資源だと思います。もう一つ申し上げるならば、温暖化だけに肩入れをしているわけでは全然なくて、環境問題といった時に、一番大元にある日本だったら、公害問題これも全く解決していない部分が沢山ございます。水俣の問題ももちろんあります。ですから交野の次の環境基本計画に何を入れるかという時には十分に幅広く吟味してこの地域の特色を活かすような基本計画を作っていたらなというふうに思います。

委員長 どうぞ。

委員 あの山もそうです。里山、山も交野の資源なんです。だからそれを守っていくにはどうしたらいいかっていうことを考えた基本計画、環境、大事な地下水もそうですし、私何十年も前に聞いたことがある交野の子ども達がね、地下水、川が見えてることで水のことを勉強するいい素材があると仰ってたのを聞いたことがあるんですね。流れてる川を見たり、遠くにある山を見て環境を考えるということがすごく大事ことだと思っています。

委員長 はいどうぞ。

委員 すみません。私、あの先程ブームって言ってそれは心外だと仰いましたが、全てが地球温暖化に繋がっているから、その地球温暖化の尺度で見れば全ての環境問題なんだというふうな言い方に聞こえましたんで、あの別に僕は地球温暖化問題というのは非常にももちろん重視してます。自宅ではソーラーパネルを付けて10年以上経って蓄電池まで付けて自分のところで自給自足の生活してるのは、まさにそれです。それは災害時にも繋がって大地震でブラックアウトした時にですね、自分のところでやっていけるように自分は自分でやっています。だから、僕が言いたいのは地球温暖化ももちろん大事で、地球温暖化対策が一つの柱です。でも本当にもう一つそこに、地球温暖化だけではこぼれ落ちてくる環境施策があまりにも多いから、こういう地球温暖化に偏った四つの柱ではいかがなものかと言いたい。地球温暖化ももちろん大事だけでも、もっと、もう少しその水系とかですね、先程の全てが繋がっている環境というのは全てが繋がっていて独立させるのは難しいですけど、全てを地球温暖化対策っていう視点でしか、環境問題を語らないっていうのは、だから、ブームと言ったわけです。

委員長 ありがとうございます。

四つの柱にバランスよく対応した施策をとということで、また今後ワークショップもございますので、そちらで、審議会ではこのような意見が出たということで、ワークショップのほうでご検討いただけないでしょうか。

事務局 はい。

委員長 沢山ご意見をいただきましたが、それ以外に何かございませんでしょうか。どうぞ。

委員 ごめんなさい。そういう意味では、この資料の中には国がやることとか、大阪府のそういうのはいっぱい書かれているんですけど、ワークショップを行ってきている状況が書かれてないので、すごく議論がしにくい、具体的な議論がしにくいかなと思っています。今スケジュール表を拝見していたら、第2回の審議会で素案が確認できるということによろしいでしょうか。

委員長 いかがでしょう、第2回には具体的な素案が出てくるのかということ。

事務局 はい。現在まだ、たたき台的なものをご確認いただける段階ではありませんので、第2回を開催する前に委員の皆様方には周知等、随時情報共有をさせていただきたいと考えております。

委員長 次回は、具体的な審議が進むかと思えます。いかがでしょうか。ほかに。

委員 今回の日程ですね、素案と審議会2回目の関係ですけど審議会2回目が終わったら、3回目を経て答申となりますので必ず、2回目の審議会の時には素案が完成してそれを完成形に持ってきて貰わないと、審議が進まないと思うんです。そこをちょっと考慮して欲しいのですが、いかがですか。

事務局 はい。その予定で進めてまいりたいと事務局もっております。

委員長 はい。第2回には具体的な素案を出して、審議いただくということで進めたいと思えます。よろしいでしょうか。
それでは、そろそろ。本日は環境基本計画の新しい考え方としては四つの柱で取り組んでいくということで、ご了承いただきたい。その中にバランスよく施策に取り組んでいくということで、次回四つの柱の指標や施策についてご検討・審議いただきたいと思えます。ご異議ございませんか。

委員 異議なし

委員長 それでは、本日これで案件が終了いたしました。委員の皆様には大変、活発にご意見いただきありがとうございました。
それでは事務局に進行をお返しいたします。

事務局 はい。失礼いたします。本日は第1回交野市環境審議会に開催にあたりまして、次期、第二次交野市環境基本計画の策定の基本的な方向性と、包括的な部分の今の考え方その辺りをご説明させていただきまして、ご審議をいただき、まことにありがとうございました。本日、この審議会で拝聴させていただきま

したご意見につきましては、現在進行しております。ワーキンググループの作業に反映させていきたいと考えております。次回 12 月ぐらいを予定しているところでございますが、進捗に応じて情報をお伝えさせていただきたいと考えております。

色々と今後の施策を実行していく根拠となるという部分で、交野市の中長期的なビジョンのひとつになりますので、そのあたりしっかり作業してまいりたいと思います。本日は長時間にわたりまして進行・審議いただきまして、心よりお礼申し上げます。また次回の開催時には実のある素案という形でお示しさせていただきたいと思っております。本日はどうもありがとうございました。